

令和8年度 高山市立松倉中学校 経営構想 (Ver 1)

【学校の教育目標】

人間性豊かで
たくましく生き抜く生徒

【育てたい資質・能力】

対話を駆使して
考えを深める力

◎高山市小・中学校教育の方針と重点 ※「一人ひとりに合った…」が重要
【方針】未来社会を創造する資質・能力を身に付け 【重点】Ⅰ郷土教育 Ⅱキャリア教育
自分らしく、一歩踏み出し学び続ける子の育成 ⅢICT教育 Ⅳプレゼン教育

地域の個性

○コミュニティスクール
「地域と共にある学校」 創立80周年！

○地域の財産（自然・文化）
「松倉城、飛騨の里、乗鞍ビュー、
友好の丘（デンバー公園）等」

本校の生徒の「強み・弱み」

強み…「生徒の明るさ、はつらつさ」
「生徒の素直さ、人懐っこさ」
「大規模校がゆえの個性の多様性」
「出身小学校ごとによる双方向の個性の刺激」

弱み…「学力の個人差」「学習集団内の二極化」
「レジリエンスの低さ」
「人間関係構築力＆修復力の低さ」
「自己表出力の乏しさ」
「増える不登校生徒」

資質・能力を高めるために、生徒・教職員が大切にする言葉

“Agency”～継続と責任～

※Agencyとは変化を起こすために自分で目標を設定し、
振り返り、責任をもって行動する力

【R8年度の重点目標】

- 縦割り活動を生かした“人間関係力づくり”
- 「学校に勢いをつけ、誇りを持たせる活動」の活性化
- 一人ひとりに力がつく常活動「松中タイム」の充実
- 対話から議論へと発展させるための土台づくり

- 一人ひとりの“居場所づくり”と不登校対応の充実
- 卒業生全員が同じ時・同じ敷地内での卒業式
- 教職員が育つ学校づくり



企画委員会

学習指導部会

生活安全指導部会

特活指導部会

人間性豊かな生徒

《学習・授業》

- ◎個別最適な学び・協働的な学びの推進
- ・「3つの対話」の活性化
- ・「対話」を駆使して課題に向かう意欲づくり
- ◎仲間と学ぶスキルの向上
- ・「対話」から「議論」へと発展させるための意欲付け
- ・相手の意見をきちんと受け止める力と新たな自分の考えを生み出す力の構築
- ◎ICTの活用
- ・対話のツール、広めるためのツールとして
- ・プレゼンテーション力の向上

《特別の教科「道徳」》

- ・物事を多面的・多角的に考える
- ・人との交流、体験を通して自分自身の意識の変容を自覚

《総合的な学習・キャリア教育》

- ◎地域と連携した「寝屋子プログラム」の充実
- ・体験的学習を重視した進路・キャリア教育
- 1年：職業講話、寝屋親決定
- 2年：職場体験
- 3年：生き方探究、進路決定
- 全校：「生き方に関わる講話」
- ◎学年・学級別探究による総合的な学習
- ・敷かれたレールを行くのではなく、自分たちの興味関心を追求する活動の充実

《進路指導》

- ・卒業後の進路実現への丁寧な説明、働きかけ、意欲づけ、見届け、励まし
- ・個別対応を成立させるための「支援体制の構築」
- ・保護者との連携

《生活指導》

- ◎変化を求め、願いをもち、実現に向けて自ら考え、行動する生活づくり
- ・自らの生活を自ら律する力
- ・集団生活を送る上で必要な規範意識
- ◎社会に通用し役立つ生活力づくり
- ・心ある挨拶と対話
- ・相手意識のあるコミュニケーション力
- ◎いじめを絶対許さない校風づくり
- ・「松倉の正義」の掘り起こし
- ・絶対に「傍観者」にはならないという気高さの醸成

《教育相談》

- ◎不登校の未然防止
- ・スマイルサポーターからの声かけ
- ・スピード感のある対応・情報共有
- ◎寄り添った不登校対応
- ・アプローチの方途を短い周期で変化
- ・支援員＆保健相談員の意図的支援
- ・小さな変化を大事にする職員集団
- ・外部機関との連携
- ◎「ぎふいのちの教育」の遂行

《保健指導》

- ◎自分の健康を自分で守り、清潔感のある生活
- ・治療勧告の徹底
- ・多様な性に対応した教育

《生徒が持つ特性への危機管理》

- ・1型糖尿病への対応の徹底
- ・アレルギー対応の徹底

《生徒会活動》

- ◎縦割り活動の活性化
- ・兄弟姉妹学級としての関わりを大切にしたい1年間の繋がりづくり
- ◎生徒自身による質の高い運営
- ・生徒の願い、アイデアの尊重
- ・松倉城PR、まつくん&シオラマ
- ・PTA実行委員会との懇談会
- ◎生徒会活動を核とした日常生活向上の取り組み
- ・常時活動を基盤にした委員会活動と行事づくり
- ・校則の見直し
- ・「継承と発展の宣言」リニューアル

《学級活動》

- ◎「なりたい自分」に向けて取り組み、生み出した変化を堂々と語れる自分
- ・「なりたい自分」を明確に設定する
- ・自己を見つめ、自己課題の克服をめざして挑戦し続ける
- ・仲間に働きかけ、かかわりつづける活動
- ◎学級集団としての「なりたい集団」に対する願いを支援・援助
- ・「教師主導の学級経営」「教師色に染める」という手法の脱却
- ・活動の出口の見通しを生徒自身に持たせる

《行事》

- ◎点で終わらず線でつながる行事
- ・「縦割り活動」の価値を共有しながら進める取り組み
- ・生徒が自分たちでつくり上げた実感でできる振り返り
- ・自分を安心して表出できる

たくましい生徒

やりきる生徒

「チーム松倉」の指導の構え

- ・全校生徒390人を全職員で見守り、育てる
- ・“継続と責任”を大切にしながら“変化”を恐れず“進化”を楽しむ
- ・とにかく“やってみる” ダメなら“やめる”
- ・自分で、自分たちで「求めさせる」「考えさせる」「こたえを出させる」「実行させる」「責任をもたせる」という営みに徹する
- ・子どもだからこそ、“子ども扱いすぎない”

支え合い、磨き合う「チーム松倉」

- ・組織を生かした日常的な連携
※ねじれに配慮した組織構造
- ・即時性のある連携
- ・鍛え合う集団（若手のびのび、ベテランがっちり）
- ・教頭を核とした「働き方改革」と「日常的なコンプライアンス研修」